



3学期始業式式辞より

今日から3学期が始まります。3学期は、1年の締めくくりと同時に来年度に向けた準備の学期、いわば0学期と呼ばれています。

3年生は、新たな進路に向けて挑戦する学期。2年生は、4月から3年生として右田中の顔となり、学校を引っ張っていくこととなります。1年生は、新入生が入学してきて、先輩となり、中学生としてのお手本を示すことを期待されます。それぞれの準備期間として、この3学期を有意義な期間にしてください。

さて、右田中学校では、服装や学校の決まりを細かく決めていません。これは、すべて自由であるということではありません。中学生のうちから、常識を身につけてTPO（時、場所、場合に応じた服装や言動）をわきまえてもらいたいため、小さい決まりをなくしているだけです。常識やTPOを、言われて意識するのではなく、みなさん自身で常に意識してほしいからです。以前は先生方から、みなさんが気づくように指導していましたが、今は、みなさんが気づくことを期待して、指導せずにみなさんに任せるということです。自分で意識しなければならないので、以前より厳しくなったともいいと思います。極端に言えば、みなさんの言動が間違っているとしても、それをそのまま評価します。ただ、常識やTPOの基本的なことは教えます。そのあとは、みなさんが気づき、考え、判断し、行動することが必要になります。不安な人は先生方に聞いても構いません。

大人になって常識がないと信用されません。言われた決まりを守るだけでは、指示待ちの人間になってしまいます。そういう人は、今の世の中や企業から相手にされません。そうならないために、今のうちから常識やTPOを意識することが大切になります。

いくつか例を言いましょ。髪型です。中学校というところは公共の場所であり静粛な場所です。この「中学校は公共の場所、静粛な場所」ということが常識になります。中学校を家やショッピングセンターや遊園地と勘違いしている人は、常識がないということになります。どのような髪型がよいか、以前は細かく指定していましたが、今はしません。例えば2ブロックという髪型があります。高校入試の時、評価するのは高校の先生です。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・中略・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

また、交通ルールに関してはどうでしょうか。「見つからなければいい」という考え方をする人は、大きな事故に遭うかもしれません。そして、そういう考え方をする人は、ここというときに、無意識のうちに逃げてしまう人になる、と本で読んだことがあります。ここというときの勝負に弱いということです。以上のように、例を挙げればきりがありません。だから、みなさん一人ひとりが考え、意識していく必要があるのです。

みなさんがTPOをわきまえることができ、常識を身につけて信頼される大人に成長できるように右田中の先生方皆で、応援していきたいと思えます。

この後、生徒会役員の任命式があります。新生徒会で新たな右田中学校が始まります。昨年に引き続き、今回の生徒会役員選挙及び専門委員長には、たくさんの生徒が立候補してくれたことを、とてもうれしく思っています。たくさんの生徒が右田中のことを考え、がんばろうとしていることを、頼もしく思います。生徒会執行部及び専門委員長だけでなく、立候補してくれた人を含めて、この右田中学校を引っ張ってほしいと思っています。そして、ここにいる生徒全員で、よい伝統を守りながら、新しい右田中学校を作っていくてください。

3学期はあっという間に過ぎていきます。1日たりとも無駄にすることなく過ごせるよう、一人ひとりが心がけて学校生活を送ってください。

地域連携教育

地域連携教育の取組として、12月には「輪飾りづくりボランティア」を行いましたので紹介します。

輪飾りづくりレクチャー

輪飾りのレクチャーが12月20日（金）放課後行われました。地域から6名の方々が来校され、技術室で日曜日に行われる「輪飾りづくり」のボランティアとして参加する2年生に、輪飾りの作り方をご指導いただきました。わずか40分間の事前指導ではありましたが、地域の方々の熱心なご指導の甲斐あって、自分で輪飾りがつくれるようになりました。生徒たちも、日曜日に行われる「輪飾りづくり」では、参加した小学生や保護者、地域の方々のお手伝いができるよう、本気になって学びました。



▲【輪飾りの作り方を教わる様子】▲



▲【完成した輪飾り】▲

輪飾りづくりボランティア

12月22日（日）午前9時から、右田福祉センターで「輪飾りづくり」が行われました。たくさんの小学生と保護者が参加され、本校2年生13名がボランティアとして参加しました。事前に行われたレクチャーの成果を発揮し、小学生に手際よく作り方を教える姿が見られました。地域の方からは「すばらしい光景だ。」「中学生は小学生に教えるのが上手い。」という声が聞こえてきました。

中学生は事前に地域の方々から教わった輪飾りの作り方を、当日は小学生に教えたり、保護者と小学生がつくるのを手伝ったりすることを通して、小学生や保護者、地域の方々と交流しました。日本や地域の伝統や文化は、地域の中での人と人とのつながりを大切にしながら、伝え守られていくということ、身をもって体験できたのではないのでしょうか。昔から大切にされていたもの、そして現在見失われつつある大切なものがここにあるように感じられました。地域連携教育のあるべき姿も見ることができたように思いました。

ここに集った中学生が将来、地域で人と人がつながるよさを伝えてくれることを期待したいと思います。



【輪飾りづくりボランティアに参加して】2年 梅田 咲希 さん

ボランティア活動を通して、輪飾りを作るだけでなく、地域の方々との交流を深めることができました。始めは輪飾りについての知識が浅く、自分から積極的に行動したり、地域の方々に関わったりすることができませんでした。活動していくうちにできるようになりました。今回のボランティアで、輪飾りづくりの魅力を知り、興味をもつきっかけになりました。また、伝統がどのようにして守られていくのかを知りました。これまで受け継がれてきた伝統をこれからも守っていきたいです。